

独立歩兵第百二十九大隊略歴

陸軍中佐 野々木文雄
 陸軍少佐 水野孝之助

年月日	概	要
昭一八一八	軍令陸甲才五号に拠リ、台湾台南市に於て編成	台湾歩兵才二聯隊補充隊
一三一	在隊者を根幹とし一部召集者及東部軍管区より充當	
一三一	編成を完結せり	
二四	心管出発	
二五	南支派遣のため高雄港出帆	
二二五	広州灣進駐作戦に参加	
一九二二	二月五日高雄港出帆後香港沖に集結、訓練並準備の後	二月十六日未明雷州
一九二二	半島東側海岸に敵前上陸を敢行、同日雷州次で城月	十九日遂溪県城の攻略
一九二二	雷州半島一帯を攻略	
一九二二	の向雷州地区の警備並討伐に従事す。	
一九二二	広州灣進駐以未雷州半島一帯の治安肅正の爲警備態勢に移行湘桂作戦準備期	
一九二二	間に至る間左記各地を転々移動警備並討伐に任ず	
一九二二	遂溪 蕨章 寸金橋 雷州 城月 洋菁墟	
一九二二	主なる戦斗及討伐	
一九二二	馬頭嶺附近の戦斗(才一五五師)	

年月日	概	要
昭二九 二六 二七	<p>梧州半島南部地区の討伐（糧室）</p> <p>洋菁墟の戦斗（才一五五師）</p> <p>湘桂作戦準備作戦</p> <p>才一次廉江作戦 才二次廉江作戦 才一五五師保交才十回</p> <p>湘桂作戦に参加</p> <p>参加戦斗中主なるもの左の如し</p> <p>才三次三次廉江作戦（才一五五師）九月七日洋菁墟より行動発起</p> <p>容県攻略戦斗</p> <p>卅竹攻略戦斗</p> <p>州及蒙圩攻略戦斗</p> <p>容坪附近の防禦戦斗（才四戦区派兵主力）</p> <p>貴縣攻略戦斗</p> <p>未賓附近の戦進</p> <p>南寧攻略戦斗</p> <p>一月二十六日南寧進出時大隊長野々木中佐敵尸の銃裏に依り壯烈なる戦死を遂げ才一中隊長水野大尉之に代る</p> <p>梧州半島戦進作戦に参加</p>	
二二 二七 二七 三一		

年月日	概要
昭二九一三九	南寧より行動開始及軌途中欽県附近に於て若干の敵票破
一三三一	城月に帰營
昭二〇 五一七	海防島軌進並同地警備及討伐 雷州半島歸着直ちに行動遂起 雷州半島南部地区(徐南県)の敵を掃滅し 一月十四日海防島に渡歸完了 加東地区に進駐 敵機動部隊に備え飛行場の 破壊並海軍と協力警備討伐に任ず 次いで藤橋地区防備の島取進 海岸防禦 陣地の構築に専念す
八五 一五八	広東附近軌進作戦に参加 五月一八日藤橋市より行動開始 雷州半島に集結 態勢を整え 六月二十七 日遂溪県附近より行動遂起 化県附近に於て稍組織的の抵抗を受けたるも之 を一蹴 八月十五日広東市集結と共に終戦となる。
八 一九六	広東集結と共に広九鉄道沿線の警備に当り
九二〇	新編第一軍の授収に依り撤退す 歸營時迄 集中營生活 広九鉄道整備移設並武装解除に伴い河南集中營に集結 次いで関村に移動す

(152)

年月日	概要	摘要
昭二四一七	残務整理者官氏名	人員総員七二三名
	陸軍少佐	入院 六九名
	陸軍軍曹	死亡 七二四名
	其の他特異事項	生死不明 三五名
	なし	処刑 なし
	復員の状況	其の他残留 一名
	浦賀港入港	残留(現地) なし
五〇一七	コレヲ発生のため浦賀港船内隔離	
五一五	浦賀上陸	
五二一五	同日横須賀市久里浜収容所入所	
五二二	コレヲ発生のため収容所隔離	
	復員式終了	
六七	残務整理終了 復員完結	

独立歩兵第百三十 大隊略歴

陸軍大尉 曾根崎 幸人

年月日	概	要	技	要
昭一八 一 二七	軍令陸甲才五号に依り台湾高雄州鳳山街に於て編成下令			
一 三 一	編成完結			
二 一 五	高雄港出帆			
二 一 六	中華民國広東省海康県東海岸に上陸			
三 二 〇	広州湾(赤坎)佛狙界進駐			
一 九 七 七 三 三	広東省遂溪附近の整備			
二 七 三 九	トト号前段才一期作戦及相拒作戦参加(湘桂作戦経過の当地			
	遂溪——広西省——容県——平南——桂平——貴県——未廣			
	——賓陽——南寧——北海——広州湾)			
〇 一 一 五	海南島転進			
五 一 一 六	海南島黄流市附近海岸防備			
五 一 一 六	広東戦進(遂溪——梅泉——陽次——恩平——九江——広東)			
八 一 一 四	停戦詔書発布			
四 八 一 五	内地帰還のため広州市附近に在りて待期			
二 一 四 五	帰還乗船のため集中營出發			

18の外 朝文

(154)

1194

年月日	概	拘要
昭二、四、一〇	虎門出帆	總員二四六名
四一七	浦賀入港	現在員七六五名
五一五	浦賀上陸	入院八三名
五二二	復員式挙行	死亡六三名
	復員人員 七六五名	生死不明一六名
	残前整理者官氏名	現地、残留
	陸軍大尉 曾根崎 幸人	所在不明
	陸軍曹長 佐藤 匠	
	陸軍軍曹 石田 一郎	

独立歩兵第二百四十七大隊略歴

陸軍中佐 堀之内 新蔵
 陸軍少佐 宮崎 光次

年月日	概	要
昭一九三、一五	部隊は軍令陸甲才五号に依り編成下令(歩兵才八聯隊補充隊)	
三一九	編成完結(編成人員八一〇名)	
五一六	大阪出発	
五二三	門司港出発	
六九	吳淞港上陸	
七二二	同港出発	
七二八	廣東に上陸湘桂作戦に参加	
二、下旬	潯州に於て独立混成才二十三旅団長の指揮下に入り	
一、下旬	南等に進出次いで雷州半島を経て	
昭二〇、一、一八	海南島海口に上陸、同地附近にありて警備	
三、二三	軍令陸甲才十八号に依り編成改正該地に依り現地召集し兵力増強(編成改正後一三一七名)す	
五、二〇	広東附近之の爲め海口出発雷州半島南岸に渡航除間遂溪廉江化県電白陽江恩平を経て佛山(広東西方)に到り終戦となる	

年月日	概要
昭一九三一九	<p>編成完結時 總員八一〇名（内訳將校二七 下士官七八三名） 本部一 中隊四にして一中隊兵力一九七名なり 部隊裝備として聯隊砲二門 大隊砲二門 重機銃八（一中隊二挺） 輕機三十六（一中隊九）なり 人員は後備役の者多く従い年長者にして又補充兵 國民兵等ありて身体強健ならず 且教育訓練の程度下位なり</p> <p>兵器 經理 衛生 馬事關係 特異のものなし</p>
一九三一九	<p>編成完結</p>
五二三	<p>門司港出發</p>
七一八	<p>広東上陸</p>
九四	<p>湘桂作戦に参加三水より西江南岸を愛溪藤縣潯州貴県賓陽南寧欽廉合浦を経て雷州半島に進出之の同所在の敵と交戦</p>
昭言	<p>海南島進駐の爲行動</p>
八一八	<p>海南島河口附近にありて警備討伐</p>
五一八	<p>広東附近転進作戦に参加</p>
八五二	<p>六月二十七日廉江出發獨立混成才二十三旅団先遣隊として化県梅寨雷日を経て所在の敵を襲破 陽江に於ては約四千の敵と交戦之を襲破し旅団の戦進を容易ならしめ爾後陽江恩平三埠九江を経て佛山に至り終戦となる。</p>
三二四八一七	<p>広東市東方中山大学に集中爾後集中營生活（九月二十日河南に移転）十月三</p>

(157)

年月日	概要	摘要
昭二四一〇 五一五 六五	<p>白内村に殺戮す 虎門出港 浦賀港上陸 復讐完結</p> <p>残務整理者官氏名 陸軍少佐 官崎 光次</p>	<p>捕虜完正後 一、三一七名 入院 五四名 死亡 二一〇名 生柁明 一四名 処刑 一名 残苗 なし</p>

(58)

独立歩兵第二四八大隊略歴

陸軍中佐 渡部 巖
 陸軍少佐 白井 七郎

年月日	概	要
昭一九三一九	大阪に於て編成	
三 八	錦市宿編才二十八号に依り三月十五日編成着手	
三一九	編成完結	
三二五	波果参編才十七号に依り編成改正着手	
三二一	編成完結	
	編成完結に依り歩兵砲中隊・機関銃中隊・通信隊を設止 將校 主計將校一	
	軍医一 兵科將校廿 計十名を増加	
五一九	南等派壹 独立編成才二十三旅団に編成の爲大阪駅出發	
六 九	吳淞上陸	
七一二	吳淞出帆	
七一五	台湾高雄港寄港	
七二八	高雄港出帆	
七三〇	本東省九龍上陸	
八 三	同地出發 佛山到着	
九三三	の向 湘桂作戦参加	
二二六		

(157)

1199

年月日	概要
昭一九二五 一〇一	南寧到着 同地附近の警備 同地出発
一三〇	雷州半島徐聞泉白州埠到着
二二	海南島瓊山泉爲英到着
一九	同地出発
五二	崖泉三亞省同地附近の警備
六三	瓊山泉瓊山到着
六四	海口出帆
六三〇	雷州半島徐聞泉海面上陸
七一	徐聞到着 同地附近の警備
八一四	移駐の為 同地出発
八一八	遂溪泉寸金橋到着 同地附近の警備
九一三	待戦詔書発布
昭二一三一四	復員下令
四一	遂溪泉鋪仔墟集結
四一	内地帰還の為西營港出帆
四一	浦賀上陸
四一	緬成を解除 復員完結

(60)

(81)

1200

此の内 幸支

独立混成第二十三旅団砲兵隊略歴

陸軍少佐 岡本長之助

年月日	昭二八二一八	軍令陸甲才五一号に依り台北にて編成下令 編成裝備左の如し	
		概	要
		中隊区分	編成人員
		本部	三八
		才一中隊	二〇〇
		才二中隊	二〇〇
		才三中隊	一五四
		計	五九二
		兵	九四式整直重砲六
		砲	同 右
		弾藥	整直榴弾一〇〇〇
		銃	同 右
		要	八八高 一〇〇〇
			九四整直 一四二
			八八高射砲

編成完結
 台湾台北市台湾才五部隊に於て編成完結
 高雄港出帆
 雷州半島渡頭塙上陸
 広東省遂溪縣遂溪に到着
 遂溪県に在りて警備並に討伐に従事
 才三中隊を軍直轄とし広東地区黄埔地区防空警備に従事

(161)

1201

40の外 南支

年月日	概	摘要
昭九二九二六	湘桂作戰に參加（部隊主力）	
二二二七	南寧附近の警備並に雷州半島取進	
二二二七	海南島取進並に海南島警備	
二〇	広東地区取進（広東省雷州半島取進）	
八一五九	停戦詔書発布（取進中）	
八一四	復員下令	
八二五	停戦協定締結	
九二	内地帰還の爲黄埔乘船	
二一四七	虎門出帆	
四一〇	神奈川県浦賀港入港	
四一七	浦賀港上陸	
五一五	復員式 内地除隊 召集解除	
五二二	浦賀港入港	
昭二二四一七	コレラ発生のため船内隔離	
四一五八	浦賀港上陸 同日横須賀市久里浜収容所収容	
五一五	コレラ発生のため収容所隔離	
五一六	復員式挙行	
五二二	復員式挙行	
六一〇	復員式挙行	

(162)

1202

独立混成第二十三旅団工兵隊略歴

陸軍少佐 吉田三郎

年月日	概	要
昭一八 一・二・三	昭和十八年軍令陸甲才五号に依り編成下令	
一・三一	台湾高雄州鳳山郡工兵才四十八新隊補充隊に於て編成完結	
二・六	高雄港出発	
二・一六	帝州半島東側海岸上陸 広州進駐作戦参加	
二・一九 九・六	広東省遂溪附近の警備並に討伐	
九・七	湘桂作戦参加のため遂溪出発	
一・二・八	広西省容県——大烏坪——桂平——貴県——南寧——欽県——合浦——北海	
一・一三	——廉江を経て江界文鋪へ到着 該地に在りて警備に任ず	
二・一八	海南島転進のため文鋪出発	
一・一三	海南島秀英上陸 爾後一部を海口英流に主力は三亞に在り警備並に作戦準備に任ず	
五・一九	広東転進のため三亞出発	
六・一・二	遂溪出発	
六・三・〇	広東転進のため遂溪出発 化県——梅菉——雲白——陽江——恩平——新會——江門——九江を経て	

年月日	概	要	摘
昭二。八一三	海南県佛山鎮到着		入院
八一三	海南県佛山鎮到着		下士官 五
八一六	佛山に於て終戦の大詔拜受		兵 一二
八一七	広東中山學に築結		計 一七
九一六	河南基立村集中營に移動		生死不明
一〇一	関村集中營に移動		下士官 一
二。四五	内地帰還のため関村集中營出発		兵 六
四六	新卒集		計 七
四一〇	虎内出帆	死亡	九
四一七	浦賀入港	下士官	九
五一五	浦賀上陸	兵	二
六一三	復員完結	計	二〇
	将校六 准士官一 下士官一八 兵一四三 計一六八		

(164)

1204

独立混成第二十三旅団通信隊略歴

陸軍少佐

堤

敏

一

年月日	概	要
昭八 一・二三	總員一七五名（將校九名、准士官二名、下士官二四名、兵一四三名） 軍令陸甲才五号に基き台湾台北市才四十八師団通信隊補充隊に於て縮成に着手	
一三一	縮成完結	
二・六	高雄港出帆	
二・八	香港着 作戦準備に從事	
二・一六	広東省海康県北家村東側海岸に敵前上陸	
二・一八	城月攻略	
二・一九	遂溪県攻略	
一・九 六・二八	迄引続き同地附近の整備	
六・二九 一・三三 一・三八	周湘桂作戦に参加	
二・一 一・一八	海南島に転進	
六・一八	広海南島整備	
六・一九	海南島出発 広東へ転進	
八・二	広東省南海県佛山に到着	

(165)

1205

支那の南支

年月日	概	摘要
昭二〇・八一四	終戦となる 参加せる主要作戦 雷州半島進駐作戦 雷州半島警備 湘桂作戦 海南島警備 広東地区への転進 終戦直後佛山より広州市に移動中山大學跡象中營に束結 広州市河内ハ基立村ニ集中營に移動 更に広東省番禺梁崗村象中營に移動 左ノ同地に於て殘兵諸業務に従事 此の向將校以下三十一名 を中國側軍需品集積輸送業務援助のための派臺服務せりむ。	総員 一五五名 將校 七名 下士官 二九名 兵 一一九名 入院患者 一二名 死亡者 — 生死不明者 — 処刑者 — 殘留者 — 現在人員 一四三名 將校 六名 下士官 二七名 兵 一一〇名
九初旬		
三初旬		
二四一		
四二	帰還のため黄埔に移動	
四九	黄埔出帆 木船に移乗	
四一〇	トセコンドパール泊地出帆	
四一七	浦賀港に入港	
五一五	浦賀上陸 残務整理者 陸軍少佐 岡村章男	

(166)

1206

独立歩兵第八旅団司令部略歴

陸軍少将 松井真二

年月日	要
昭八、一三〇	軍令陸甲才百十五号に依り才百四師団才百四歩兵団司令部を基幹として中華
一九、一一五	民国広東省番禺県石牌中山大学に於て編成に着手 編成完結才二十三軍司令部の戦斗序列に入り東京 仙台、宇都宮各師団に於 て編成の隷下部隊たる独立歩兵才二一九大隊、同二二〇大隊、同二二一大隊 同二二二大隊 独立歩兵才八旅団通信隊の到着を待ちつつ集結向の訓練に従 事す。
三、三〇	独立歩兵才二三〇大隊を才一梯団として逐次到着する各部隊を掌握
五、一四	独立歩兵才二一九大隊の到着を以て旅団の編成を完結す
五、二二	才百四師団の戦進に伴い旅団司令部は広東省南海県西村に位置し広東東北方 地区の警備を担任する共に粵漢、広九両鉄道沿線地区の警備に任ず
六	湘桂作戦(才一期)開始せらるるや主として花界従化県方面に出動戦闘司令 所を大平場福岡大田屯新街等に進出し後方攪乱を企画する敵を潰走せしめ 警備態勢に復帰警備地区の前線は清遠県方面に推進南部興漢線の延伸作業に 協力す
昭二〇、一、一九	湘桂作戦(才三期)参加のため清遠県銀盆坳附近より行動発起興漢鉄道東側地

年月日	概	要
昭二〇、二、一 二、二六	<p>区所在の敵を裏破りつつ英徳平野に突進更に詔岡攻路中の才百回師団歩兵才百六十一聯隊に協力のため詔岡に急進</p> <p>詔岡入城 同地附近の警備に任ずると共に興漢鉄道復旧作業に協力す</p> <p>軍命令に基き詔州附近警備の任務を才二十軍に移譲し旅団司令部は清遠泉源潭墟附近に位置し詔州以南より広州北部迄の長遠なる興漢鉄道並に石龍附近広九鉄道警備の任に服すると共に龍眼陣地構築作業に従事す</p> <p>又警備地区の拡大に伴い特設大隊ニを抽出編成す</p> <p>停戦時に於ける兵力配置左の如し</p>	<p>旅団司令部 河通信隊 清遠泉源潭墟附近</p> <p>独立歩兵才二一九大隊 英徳泉英徳附近並に番禺泉鷓旦附近</p> <p>独立歩兵才二二〇大隊 清遠泉橋頭附近</p> <p>独立歩兵才二二一大隊 広東省坪石附近並に増城泉增城附近</p> <p>独立歩兵才二二二大隊 曲江泉詔州附近</p> <p>特設才五大隊 花県平山圩附近</p> <p>特設才六大隊 曲江泉詔岡附近</p>
五、下旬 八、一四	<p>一〇、初旬</p> <p>爾後集結命令に基き逐次兵力を花県新街及增城泉增城附近に集結すると共に特設大隊の編成を解き夫々原所屬に復帰し</p> <p>全兵力を広州市河南芳村地区に集結し集中營に入る</p>	<p>一〇、初旬</p>

年月日	概 要
昭二二三二七	<p>集中管入所以後鋭志待船同の復員業務を促進する傍ら中国側の要求に基き、各種作業に兵力を差遣す。</p>
四一	<p>独立歩兵才ニニ〇大隊 同ニニ一大隊（二中欠）、同ニニニ大隊を才一船に旅団司令部同通信隊 独立歩兵才ニ一九大隊 同ニニ一大隊の一部（二中）を才ニ船として帰還の途に著きしが 途中悪疫発生の為浦賀沖にて隔離 才ニ船は</p>
五四	浦賀港上陸
五七	復員式終了
	才一船は引続き上陸し復員す

(69)

1209

独立歩兵第二百十九大隊略歴

監軍中佐 一 駒 豊 彦
 陸軍大尉 本 向 市郎左工門

年月日	概	要
昭二八二一三〇	軍令陸甲才一五号に依り勅員下令	
昭二八二一三七	衛成担任部隊 東部才六部隊 編成完結	
	編成定員	
	本部	二九名
	一艇中隊	五(各隊二四九名)
	歩兵砲隊	二四九名
	通信隊	七九名
	合計	七四七名
二一〇	門司港出帆	
二二〇	中支(吳淞)上陸	
四一〇	中支(吳淞)出帆	
五二四	南支(黃埔)上陸	
五二四	湘桂才一期作戦に参加	
五二八	廣東地区の整備	
三九		
九九		

外の外

前文

(170)

8051

1210

年月日	概要	摘要
昭和三十九年三月二十八日	湘桂斗争三期作戰に参加 粤漢地区の警備 終戦	入院者一〇五名 死亡者九九名 生死不明者一名
八月五日	復員下令	処刑者一名
八月六日	帰国の為広州市芳村に集結完了	現地残留者無
三月四日	南支(虎門)出帆	
四月一日	浦賀港入港	
五月四日	浦賀上陸	
五月四日	復員完結	
	残務整理者官氏名 陸軍大尉 本岡市郎左工門 陸軍大尉 米倉五郎 陸軍准尉 黒田経志 陸軍曹長 白井直助	

(170)

1211

独立歩兵第二百十大隊略歴

陸軍少佐 岩久 伴三郎
 陸軍少佐 川上 穂之助

年月日	概	要
昭二八・三・一〇	軍令陸甲才一五号に依り編成下令	
一九・一・二七	編成完結	
二二・一	南支派遣のため甲府出発	
二二・六	門司出発	
二二・七	釜山港上陸	
二二・九	鮮満国境(安東)通過	
三二・二	滿支国境(山海関)通過	
三三・五	南京着	
三三・六	南京出発	
三三・六	上海着上海滞留	
三三・九	上海出発	
三三・三〇	黄埔港上陸 広東市到着 才二十三軍隷下に入る	
三三・三〇	広東省番禺県中山大学に在りて広東市附近の警備	
三三・三〇	広東省花県仙姑壇に移駐 北江警備隊として同地附近の警備	
五一・一		

年月日	概要	摘要
九六 八九	相桂才一期作戦に参加（主力は駐屯地に在りて警備一部を以て直接作戦に参加す）	人員一五一三名 入院 一一二名
七三〇	広東省清遠県銀蓋協に移駐 同地附近の警備	死亡 八六名
九九九	相桂才二期作戦参加（駐屯地に在りて警備）	生死不明 一名
二〇 二二 二八	相桂才三期作戦参加（主力を以て粵漢線打頭作戦に参加 銀蓋協——英徳向に行動す）	処刑 一名
一三一	広東省清遠県滘江口墟に移駐 北江並粵漢線両側地区の警備	
三一六	広東省清遠県源潭墟に移駐 清遠警備隊として同右地区の警備	
八一五	停戦	
一〇六	広東省番禺県芳村（廣州市郊外）に集結	
二二 三二 三八	内地帰還のため芳村出発	
三三九	広東港出発	
四五	浦賀入港	
五一二	浦賀港上陸	
五二八	復員完結	

(17)

1213

年月日	概要
	<p>残務整理者官氏名</p> <p>陸軍少佐 川上 鶴之助 陸軍大尉 盧 谷 勲 陸軍曹長 小 山 俊 満 陸軍曹長 清 水 雄 太郎</p> <p>其の他特異事項</p> <p>停戦の前後に於て各部隊の移動時に中文軍の南下北上等に伴い大隊に転属したるもの四八二名 入院其他の事情により掌握に頼る困難を来したるも 広東市出發迄には其事務的処理を了せり</p> <p>停戦後大隊の芳村兼徳中尉和二十年十一月月上旬より翌年三月下旬迄將校以下は百名を広東市浄化作業隊並才二方耐軍軍政部協力作業隊として中国側作業に従事せりめたり</p> <p>帰還輸送中輸送船内にコレラ発生の為浦賀入港後三十七日間 船内隔離を實施せられたり。但し一部は入港後尚もなく陸上隔離となり大隊全員同時の復員は不可能となりたるも全員異状なく復員を完結せり</p>

474

第二十三軍独立歩兵第二十二一大隊略歴

陸軍少佐 宮原 兼五
 陸軍少佐 熊 一

年月日	概	要
昭五、一、二一	縮成下令	
一、二六	縮成完結	
二、二二	南支派遣の爲縮成地出發	
二、二七	門司出帆	
三、一八	上海着	
三、一八	上海出帆	
三、三〇	広東省黃埔上陸同日広東省着	
三、三〇	広東省石龍東莞地区の警備	
一、九	湘桂才一期作戦に参加	
一、九	湘桂才二期作戦に参加	
二、一〇	湘桂才三期作戦に参加	
二、一〇	停戦命令に依り広東省坪石地区に於て戦斗行動停止	
八、一五	集結の爲坪石出發	
八、二六		

(475)

1215

年月日	概 要	摘 要
昭三〇・一 二・三・三 二八	<p>瓜東着 芳村集中队に集結</p> <p>復員の為主力（才三、四中隊欠）瓜東出發</p>	<p>入 院 六二名</p> <p>生死不明者なし</p> <p>処刑者 なし</p> <p>残留者 なし</p>
四五	浦賀港入港	
四六	コレラ発生に因り浦賀沖に碇泊	
五二	浦賀上陸 池上援護所に収容	
五二	部隊解散	
五	二日市に於ける残務整理終了 復員完結	
	残務整理者官氏名	
	陸軍少佐 熊 一	
	陸軍大尉 垣 野 留 節	
	陸軍軍曹 岩 田 好 雄	
	同 中 沢 丸 三	
	其の他特異事項	
	分離帰還せる一部（才三、才四中隊）行動概要	
昭三、三三	復員の為瓜東出發	
五四	コレラ発生に因り浦賀沖に碇泊	
五四	浦賀上陸 同日横須賀援護所に収容	
五七	除隊召集解除	

夕の内 有支

076

1216

第二十三軍独立歩兵第二百二十二大隊略歴

陸軍大佐 斎藤 俊三

年月日	概	要
昭五 一 二一	編成着手	軍令陸甲才十五号に依り会津老松東部二十四部隊に於て編成
一 二六	編成完結	
	基幹人員	東部才二十四部の一部
		東部才二十二部の一部
		召集兵
二 二一	南支派遣のため編成地出發	
二 二六	門司出發	
二 二八	釜山上陸	
三 一	鮮満国境(文東)通過	
三 三	満州国境(山海関)通過	
三 八	上海着 上海滞留	
四 一〇	上海出發	
四 二五	広東省黄埔上陸	
七 一五	流溪地区の警備	

(177)

1217

此の外

南支

年 月 日	概	要	摘 要
昭 二 六 六 八 三 〇	湘桂才二期作戦に参加		人員一四九〇名
一 〇 〇 一 四	広東省山心同担地区の反乱戦に参加		入院 七六名
二 〇 二 三 〇	湘桂才三期作戦に参加		死亡 一三五名
八 一 五	待戦命令に依り広東省察昌県昌附近地区に於て戦斗行動停止		生死不明 二名
九 一 九	花界平山坪地区に集結		
二 一 三 二 九	復員のため広東出發		
四 五	浦賀入港		
五 四 一 五	コレラ発生に因り浦賀沖に碇泊		
五 一 二	浦賀上陸中台援護所に収容		
五 一 七	部隊解散		
五 二 九	二日市に於ける残務整理終了 復員完結		
残務整理者官氏名 陸軍大佐 斎 藤 俊 三 陸軍大尉 加 藤 清 正 陸軍警長 榎 井 辰 蔵 陸軍中尉 高 橋 功			

4787

1218

独立歩兵第八旅団通信隊略歴

陸軍大尉 石川 倉 蔵

年 月 日	概 要
昭 元 一 一 三	軍令陸甲才百十五号に依り東部才四十三部隊に於て編成完結
一 一 三	東部才四十三部隊に於て編成完結
二 一 七	任地派遣の爲七管出發
二 一 〇	門司港出帆
二 二 〇	中支那吳淞に上陸
三 三 〇	同地に待給
四 一 〇	吳淞港出帆 台湾を經て
四 二 三	南支那海黃埔に上陸同日より独立歩兵才八旅団長の指揮に入り広州市に駐留 同地附近の警備に任ず
昭 元 一 一 三	湘桂作戦才一期
六 二 九	湘桂才二期作戦參加
八 三 九	才三期作戦參加の爲駐地出發
二 一 九	広東省曲江縣韶州市着 同日より韶州附近の警備に任ず
二 二 二	同地出發

(179)

1219

年月日	概	要	抽	要
昭三二二八	広東省清遠縣源潭墟着同日より同地に於て粵漢線の整備に任ず		入院	九名
八一五	傳戦詔書發布		死亡	四名
九一四	内地出発 広東省花県新街を経て			
一〇三	広東省番禺縣芳村末中營に入所			
昭三二三二	内地帰還の爲内地出発			
四一〇	浦賀港着			
五四	同港に上陸			
五七	復員式終了す			
昭三二四一〇	業務整理者官氏名 陸軍大尉 石川金蔵 陸軍曹長 名越秀大 其の他特異事項 浦賀港に到着するも船中「コレシ」患者出態の爲船中に在りて 迄隔離せらる			
二一五三	本科將校 三名 准士官下士官 四六名 兵 九四名			

(180)

1220

独立歩兵第十三旅団司令部略歴

陸軍中將 荻合 松二郎
陸軍大佐 川上 護

年月日	概	要
昭二九、三、一〇	軍令陸甲才一五号に依リ「南支那広東」に於て現地部隊たる才百四師団、独立混成才十九旅団、独立混成才二十二旅団、独立混成才二十三旅団の一部を基幹とし將校以下百八十一名、馬十頭の編制定員を以て完結せり	
昭二九、八、三、一〇	編成完結以降終戦迄広東に於て南支那広東及同属回地区の警備に任じ	
二九、三、三、一	迄広東郊外岡村及大門附近に於て集中營生活をなし	
四五	同年同月復員帰還の爲大岡集中營出、広東郊外新津に向い	
四六	V〇八七号船に乗船	
四一四	黄浦港出帆	
六一	浦賀港入港	
六一	浦賀港外に於て検疫隔離	
六四	浦賀久里浜収容所に入所	
六二	除隊召集解除	
六二	復員完結	

(8)

独立歩兵第二三九大隊略歴

陸軍少佐 川 名

巻

年月日	概	要
昭二八二二二〇 一九三一〇	<p>軍令陸甲才百十五号に依り 広東省番禺縣中山大学に於て編成完了 編成完結以來終戦迄広東周辺地区の警備に任ず 残務整理者官氏名 陸軍少佐 川 名 巻 陸軍大尉 木 田 四三生 陸軍軍曹 龜 井 徳 次</p>	
昭三〇九二 二二四六	<p>停戦協定締結以來広東省広州市河南村及同大崗塚中營に集結 内地復員帰還の爲広東省霞浦港出発</p>	
六二 六四	<p>消賀港上陸 復員式挙行 同日復員完結す</p>	

左の外 詳支

独立歩兵第二百四十一大隊略歴

陸軍少佐 諸角誠

年月日	概	要
昭六		
一九三〇	軍令陸甲才一一五号に依り 中華民國広東省番禺縣中山大学に於て編成完結す	総員 二二九七名
三〇	編成完結と同時に同地附近の警備	入院 一一二名
三二八	広東省順德縣九江に移駐同地附近の警備	死亡 一一二名
四二七	広東省新会縣江門に移駐 同地附近の警備	生死不明 一三名
八	一部を台山縣三埠に派遣 同地附近の警備に任ぜられた	処刑者 一名
二〇五二七	広東省德慶縣德慶に移駐 西江沿岸地区の警備	
七二五	広西省蒼梧縣梧州に主力出動丹竹支隊の撤退援護	
八一六	同地区撤退広州市に奉給	
二二四二	内地帰還のため黄埔出帆	
四一一	浦賀入港	
五一四	浦賀上陸	
五二〇	浦賀に於て復員す	

(83)

1223

独立歩兵第二百四十二大隊略歴

陸軍少佐 吉次 倉次郎

年月日	概	要
昭一五、一、二〇	軍令陸甲才一五号に依り広東省番禺縣閘村に於て編成着手	
三、一〇	編成完結 (本部 五子中隊 歩兵第中隊 頭尾中隊)	
三、三〇	広東省中山県石岐着	
五、三〇	広東省中山県警備	
五、二四	才二中隊を順德縣大良に派遣同県南部を併せ警備	
二、二一	集成大隊編成の爲才一中隊を広東省南海縣九江へ分遣	
二、五	広東省莞縣虎門地区へ転進の爲中山県出發	
八、三五	広東省東莞縣虎門地区及順德縣南半部を警備	
五、一八	集成大隊編成の爲才四中隊を広西省平南縣丹竹へ分遣	
八、四	広東省花県赤泥地区へ転進の爲虎門順德地区出發	
八、一五	広東省花県赤泥地区の警備 終戦に至る	
	職務整理者言氏名	
	陸軍少佐 吉次 倉次郎	
	陸軍大尉 山本 夏男	
	陸軍曹長 平田 岩 雄	

必の外

新支

(184)

独立歩兵第二百四十六隊略歴

陸軍少佐 三宅 赤彦

年 月 日	概 要
昭一九三〇 三三〇	昭和十八年軍令陸甲才一一五号に依り広東省番禺縣中山大学に於て編成完結
三三〇	中山大学附近警備勤務
三三〇	警備交代のため後動
四一	広州市附近駐軍
二〇八一五	広東省四邑地区警備勤務
一〇一	広州市河南大崗 大崗集中營に集結
二二三二九	乗船のため大崗集中營出発
三二九	黄埔乘船地に集結
四一四	虎門出帆
四一一	浦賀入港
五一四	浦賀上陸
五一四	浦賀引揚援護局収容所に入所
六一五	復員完結
	其の他特異事項
	昭和二〇、四一、昭和二十年徴集現地応召入隊兵一七六名

(125)

1225

年月日	
<p>概</p> <p>要</p>	<p>(内地人八八名、台湾人八七名、朝鮮人一名)あり 昭和三十二年、五、三〇。現地応召者一三六名八人員は書類焼却せる ため正確ならず) 前二項の人員は殆んど全員現地部隊召集解除(朝鮮籍台湾籍 の一部は中国側に移管)せり 内地よりの応召入隊者によりて現地召集解除せるもの一三名あり</p>
<p>摘要</p>	<p>内地部隊 一、二、三、二名 入院 一、三、一名 死亡 一、二、六名 生死不明 一名 逃亡 七、八名</p>

188)

1226

年月日	概 要	摘 要
昭二〇、八一五	終戦時広東省花県赤泥にありたるも	現在喪
九二	奥岡命令に依り広末に集結	一、二八六名
九二二	岡村集中營に移動	入 院 九九名
一〇、一	大岡集中營に移動	死 亡 一〇二名
二二、三、二九	岡集中營にあり 内地帰還の爲黄浦に集結	生 死 不 明 三名
四二	同巷上りライターに散り虎門に登り	処 刑 二名
四四	虎門出發 内地に帰還す 船中コレラ発生を為	
五一四	浦賀港上陸 復員完結す	

(187)

1227

独立歩兵第十三旅団通信隊略歴

陸軍大尉 吉田 幸夫
 陸軍大尉 葛 秀夫

年月日	概	要	摘要
昭和三十一 一九三〇 八月一五	軍令陸甲才一五号に依り、前支隊広東に於て現地部隊たる電信才十四班隊才十四師団の一部を基幹とし、將校以下百十 一名、馬十一頭の編成を以て完成せり	入院 四名 生死不明 一名 死亡 五名	
九三〇 三二	任し 広東郊外岡村及大岡に於て集中營生活をなし、同年同月同日 復員帰還のため大岡集中營出發、広東郊外新埠に向い移動	取 十八名 現地部隊召集解 除者 十七名	
四五	V〇八七号艇に乘船		
四六	黄浦江出航		
四一四	浦賀港入港		
六一	浦賀港に於て検疫隔離		
六四	浦賀上陸、久里浜收容所に入所 除隊、召集解除 河原以下百十九名		

(188)

第六十九兵站地区隊略歴

陸軍入告 福田 伊五郎

年月日	概	要
昭五三三 五	動員下令に依り同月十日より歩兵才百十三聯隊補充隊に於て才六十六兵站地区隊本部編成業務に着手	
三二六	動員完結(將校以下二〇三名)・地区隊本部隷下部隊編成左の如し	
四一五	才六十六兵站警備隊(將校以下一〇三五名)才九十六兵站勤務中隊(將校以下五一一名)	
昭五三二 八	内司港出発と同時に南支派遣才二十三軍司令官の指揮下に入る	
四五	屯管出発	
	内司港出発	
	南支黄蘗上陸	
	広州市河南到着	
	参加せる作戦及警備	
四三 六八	広東周辺の警備	
六九 八九	トシ号前段才一期作戦	
三九 九九	湘桂作戦才二期	

(187)

1229

年月日	概	要
昭和一九三二年八月二八日	相桂作戦才三期並に憲臺作戦	入隊 六名 (左京市河内に於て)
昭和一九三二年九月一日	広東河内の警備並に三河作戦	死亡者 七名 (軍兵一名を含む)
昭和一九三二年九月一日	終戦後系米市河内に於て集中營生活	生死不明者 〇名
昭和一九三二年九月一日	内地帰還の爲集中營出発	処刑者 一名
昭和一九三二年九月一日	新埠(費埔)に於て乗船待機	上官殺害懲役十五年
昭和一九三二年九月一日	乗船出発	昭三二四兵使法才系
昭和一九三二年九月一日	浦賀入港	該者にして軍人として
昭和一九三二年九月一日	ココレラ患者発生のため海上隔離	養格喪失現在才二十三
昭和一九三二年九月一日	浦賀上陸	軍刑務所に於て判罰
昭和一九三二年九月一日	復員完結	行中に付き部隊人員に
昭和一九三二年九月一日	召集解除者 一三九名 (内船内にて入隊のため召集解除者一八名)	含まず)
	残留者整理者官氏名	残留者
	陸軍大佐 福田伊五郎	
	陸軍准尉 黒瀬定義	
	陸軍伍長 溝上啓三郎	

(172)

1230

第六十六兵站警備隊略歴

陸軍中佐 宮 地 忠 一

年月日	概	要
昭五三三	動員下令十日動員才一日とりて歩兵才百十三聯隊留守隊に於て本部行本歩兵四箇中隊機関銃一中隊歩兵砲一小隊を編成し	
三二七	動員を完結す	
四五	内司巻出発	
四二三	広東黄浦港上陸	
四二四	広東地区警備	
四二八	才一 才二期湘桂作戦	
四二九	才三期湘桂作戦及豊恵作戦	兵站警備
三三六	才三期湘桂作戦及豊恵作戦	
三三一	広東周辺軍需品警備	
九三三	停戦に伴う軍需品の整理及中隊に移管 部隊衆結	
九一五	集中管生活約半数中国側に協力作業其他保健及自活農園作業に従事	
九一六	帰還の為黄浦衆結	
四二二	乗船	
四五	出発	
四六		
四一四	浦賀港入港	

(191)

1231

48の内
前文

年 月 日	昭二、六一
概 要	<p>上陸復員完結（召集解除）</p> <p>残務整理者官氏名</p> <p>警備隊長 陸軍中佐 官地 志一</p> <p>副官 大尉 小田 喜太郎</p> <p>書記 曹長 高森 荒男</p>
摘 要	<p>將 校 二四</p> <p>下士官 一六一</p> <p>兵 六八八</p> <p>軍 属</p> <p>計 八五五</p> <p>入院患者 五五名</p> <p>生死不明</p> <p>処刑者</p> <p>残泊（現地へ）</p> <p>以上該当者なし</p>

(192)

1232

第六十六兵站勤務中隊略歴

陸軍大尉 立石長七

年月日	概要	要
昭一九三、五	中隊を編成	動員下令に依り長崎縣大村市歩兵才一四六所隊補充隊に於て才六十六籍勤務
三、一七	勳員完結	将校五(軍医一)下士官一五(上計一、衛生一)其の他兵四九一(衛生三) 總員五一一名
三、二八	屯営出発	
四、二三	広東省黄埔港上陸	同日広東省
四、二四	広東附近の警備	
四、二八	湘桂作戦才一期参加	
八、二九	湘桂作戦才二期参加	
十、八	湘桂作戦才二期参加	
一〇、一三	広東及香港附近の警備	
一〇、一四	湘桂作戦才三期並に惠豊作戦参加	
一〇、二二	停戦詔書発布	
一〇、二四	部隊の主力は河南集中營集結	
二、四	内地帰還のため河南集中營出発	同日黄埔集結
二、五	黄埔港出発	

年月日	概要	摘要
昭二、四一四 六一 六四	<p>浦賀港入港 浦賀上陸 召集解除</p> <p>一部香港貨物廠に協力中の齋藤中尉以下五四名は、九月十一日英回管理深水浦俘、収容所に移転、昭和二十年十二月、内地帰還のため九龍港出発、十二月二十七日、虎兎島港上陸、十二月二十七日召集解除</p>	<p>入院 一六名 死 七 一七名 生死不明 なり 処刑者 なし 残 苗(現地)一名 召集解除者 三九四名</p>

資料

(194)

1234

波第九七一六部隊略歴

年月日	概	要
昭二〇.三.二三	「ト」号作戦に参加後「セ」号作戦に参加	才一小隊長福島少尉は部下小隊
九一	の一部分を率い広東出發 才二十三軍野戦貨物廠香港 廠に協力勤務を命ぜられ同工廠の警戒警備並に軍需品輸送業務に（昭和二十年九月十日迄）任ず	終戦に伴い英軍側の命に依り 香港九龍塘より九龍深水浦俘虜収容所に移託
一三.一八	滞留労役等に服す	内地帰還を命ぜられ左記部隊の人員を掌握し
一三.一九	深水浦俘虜収容所出發	英船「サヴァーナ」号に乗船
一三.二〇	香港港出發	
一三.二七	無事虎光島に上陸	復員をなす

495

1235

電信才十四聯隊略歴

陸軍大佐 西川平一
同 佐々木政一
同 都築末吉

年月日	概
昭三〇	<p>臨時編成（久留米）</p>
五三	<p>臨時編成（広東）</p>
一九、四	<p>編成改正（広東）</p>
昭三〇	<p>第八通信隊は才二十一軍の戦斗序列に入り広東攻戦に参加し爾后主力は広東に位置し有無線通信勤務に任ず 作戦の進捗に伴い軍戦斗司令所前線に推進せらる隙は部隊主力は抜を失せず有無線通信網を構成し之が連絡を確保せり 内地帰還也 南支広東地区は終戦後数度集中營 十月初旬漸く一定せる集中營に駐せり 現地自活表團等を大々的に開拓し身心を鍛錬しつつ復員の日を待機せり 当部隊は終戦後引籠軍司令部と総軍司令部及隸下各兵団部隊間の無線通信並に各集中營及中国側軍政各機関間の有線通信連絡に任ずると共に十一月初旬より在広東中軍方面軍司令部軍政部電報局電力廠等各機関に部隊人員一八〇〇名の約六〇％を派遣し並に一般労務に関し協力せり 而りて協力人員三月下旬迄に全部引揚を完了し帰還のため全員広東を出発せるも乗船待機</p>

9の寸

再々

(196)

1236

年月日	概
昭二四二	場（黄浦）に於て中国軍政部に再度徵用のため將校以下二〇名を残置すべき命を受け已むなく該人員を才二十三軍司令部に転属残留し未だれり。
四八	終戦後部隊の移動集結困難なりしため出先各有無線小（分）隊等は各々其の配属部隊に転属せしむると共に本隊に追及り得ざる野戦電信才三中隊の一小隊共の他人員当隊に取入せり
四一五	軍紀は終戦後も何等変ることなく厳正に維持せられたり
五	広東東中管出巻
	乗船持位運出帆（新津「セコンドバー」）
	浦賀港入港 上陸
	役員完結帰郷
	復員業務残務整理者左の如し
	聯 隊長 陸軍大佐 都 榮 末 吉
	同 副 官 陸軍中佐 青 木 文 太 郎
	同 本 部 書 記 陸 軍 書 長 坂 中 武 光
	同 陸 軍 伍 長 篠 崎 勇

(191)

自動車第三十九連隊略歴

陸軍中佐 吉田茂雄
陸軍中佐 北原利則

年月日	概	要
昭二七、七、二三 七、二七	陸軍才四十九号に依り編成下令 南支広東に於て編成完結	聯隊の主力は兵站自動車才一七三 同一か二中隊 独立自動車才三二中隊を 編合し一部所要の要員を南支那野戦自動車廠 同貨物廠 広東才一陸軍病院 独立自動車才三三中隊より充當し本部四中隊、材料廠一を編成し才二十三軍 に直屬す
一八七、七	南支広東に在り同地附近飛行場設定資材の輸送並補給諸廠並在広東諸部隊の 軍需品隊属貨物の常統補給輸送に任ずると共に駐留地附近の警備治安工作に 任じ一部を香港九龍地区花県及び樟木頭等に派遣し主力と憲同様の任務に服 す。	
一九、九、一	依然前項業務を継続すると共に教育を昇揚り資材を整備し戦斗力及難路戦斗 山地湿地河川等の突破能力の画期的向上を図り、道路橋梁湿地通過施設及操 舟等工兵的技术を注入し且つ敵機の跳梁下自動車部隊を以てする突破能力を 練磨し聯隊の特徴たらしむる域に達せしめたり	
一九、二、九	湘桂作戦に参加し右訓練を遺憾なく發揮せり	

49の外 南支

年月日	概要	要
昭三〇、三、三		広東附近に在りて同地附近に於ける常統補給に任ずると共に自動車並に各種資材の整備海岸防禦訓練及対空施設の強化を計ると共に有力なる一部を以て樟木頭——惠州——平山——向道約七、八十ヶ所に上る戦車壕十八ヶ所橋梁を補修に任せしむ
二〇、八、四		主力を以て広東省惠陽景惠州に前進しマオ百四師団及マオ百二十九師団に對する惠州樟木頭以東の輸送を含む兵站業務の一部は依然広東に残置し軍帶品の対空分散及常統補給に任せしむ
二〇、一、二二		広東省惠陽景惠州日本徒手官兵マオ三旅中營に收容せらる
二二、二、二二		前項集中營出發
二二、二、一八		大平寮に到着
四七		追待船
四九		虎門港より乗船し
四一七		浦賀に入港せしむ途中コレラ発生し浦賀沖に隔離せられ
五二〇		上陸 同地地上検査所に收容 復員完結す
		残務整理者官氏名 陸軍中佐 北原利則 同 大尉 福田安之 同 軍曹 植中重徳

(177)

1239